



整容面の自主自律を



整容：姿・かたちを
整えること

梅雨。暑くなり制服の衣替えがすんで、少々気になることがあります。それは、制服のルーズな着方です。具体的には、女子生徒のミニスカートと男女ともにシャツの第2ボタンあけです。もちろんすべての生徒というわけではありませんが、どちらも学校の制服として考えた場合、短かすぎ、あけすぎ、肌を露出しすぎ、です。ルールを守る上でも、身だしなみ感覚としても、そして女子は防犯上も大変好ましくないと思っています。

制服は制服、駄目なものはダメ。ルールは守る。私はそうと思っています。しかし、それでは話が終わってしまうので、いくつか話をして皆さんの自覚を促します。

まず、中身と外見論について。人は中身が大切で、外見で判断してはいけません。これは正しい。外見は、制服ということを除けば、個人の好み・趣味の範疇で、本質的には瑣末な問題といえます。一方で、人は中身が外見に出る。だから外見でその人の第一印象が決まる。これもまた真です。その人の経験や教養は、外見（表情・物腰・服装など）に品格として出ます。この意味では、外見がその人の中身を語っています。定められたユニフォームとしての制服を、ルーズ（要するにだらしない）に着ることは、私には、しっかりした考え（規範意識、学業への真摯さ、防犯意識等々）を持った伝統校の生徒集団の雰囲気とは違うと思えます。まだ赴任2カ月半ですが、私にとって皆さんは、色々なことに一生懸命頑張る自慢の生徒です。品のある外見、ということにも配慮してください。

次に、皆さん知っての通り、現在本校は数年前とはいい意味で大きく変わってきています。一時は入試で定員割れをするほど地域の信頼が揺らぐ時期がありました。私は、その時の生徒たちも今の皆さんと変わらない、いい生徒たちだと思っています。しかし、生活面（服装・頭髪遅刻・中抜け・）で“自由”が前面に出すぎ、評価を下げてしまった面があると聞いていま

す。それに対して、地域（具体的には中学生やその保護者など）からいい意味で注目されている今、生徒にはより一層品のある整容を心がけてもらいたい。この点に関して、必ず「学校の体面（外面）のために自分たちを縛るの？」的な意見が出ます。しかし、成長に比例して、複眼的な思考を持つことが大切です。この場合の複眼とは、自分の好みや利害からの視点だけでなく、自分の所属する集団全体を考えた視点です。皆さんは、将来、地域や社会の中心的存在になると予想しています。また、それを願っています。だからこそ、この大きな視点は大変大切です。私たちは、本校の過去と未来をつなぐ「今」を過ごしていますが、間違いなく未来に対して責任を持っています。何故なら、国府台高校は我々が卒業しても歴史を刻んでいくからです。本校の評価を再び下げ、課題の多い学校にしてはならない。鴻陵生は、誰もそれを望んではいないと信じています。

以下に『生徒手帳』の「生徒生活規定」から、2つ抜粋して載せます。

（服装等）

第30条 服装・身だしなみは、常に清潔・質素・端正を心掛け本校生としての品位を保つこと。

〈身だしなみ〉

1. 制服の加工及び着崩しはしない。

ひざ上○cm、第1ボタン、等と数字は書いてありません。抽象的な表現は、皆さんの常識と感性に期待しているからです。良い生徒が集まり、発展しつつある本校にふさわしい、品格のある制服着用を心がけること。人から注意されて楽しい話ではありません。整容面でも、自主・自律を貫いてほしい。自分を見直す生徒が増えることを期待します。



6月27日までに1冊読んでおこう！

6月27日（金）は、創立70周年記念式典。本校のダンス部・吹奏楽部・書道部のパフォーマンス発表の前に、池谷裕二先生（東大教授）の「**脳を知って、脳を生かす**」の講演があります。著書は何冊か読んでみました。目からウロコ。約40年前の受験勉強中の自分の暗記術（4感法 一目・手・声・耳の総動員）の効果が、脳科学で証明されたような気持ちです。納得。脳の性質を知れば、俄然勉強する気になること請け合いです。2週間あります。1冊読んでから講演を聞こう。

○『進化しすぎた脳』、『記憶力を強くする』（以上講談社）、『海馬』（新潮 庫）、『のうだま』（幻冬舎） *本校図書館にもあります（佐竹先生のオススメは『受験脳の作り方』（図書館通信より））



